学校名	那智勝浦町立宇久井中学校
授業者	3年生担任、3年生副担任、特別支援学級担任

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

名古屋港の施設見学

1-2. 学年

3 年生

1-3. 教科(単元を実施する教科を全てお書きください)

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

修学旅行の一環として、名古屋港にある海洋関連施設の名古屋港水族館・南極観測船ふじを見学した。宇 久井中学校の生徒達が暮らす地域も、漁業が盛んな海の町である。南極観測船ふじでは海洋調査についての 学習を通して、海と自分たちの暮らしが結びついていることを理解させる。名古屋港水族館では、生命の進 化や世界の海の特徴を紹介している展示を通して生命や海の豊かさを感じ取らせる。

さらに、海洋学習を通して自然への畏敬の念を抱かせるとともに、海からの恵みに感謝し、大切にしようとする心を育てる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- ・南極観測船ふじの調査方法や内容を知り、南極の海について学ぶ。
- ・生命の進化や多様な海の生物に触れることにより生命や海の豊かさを知る。
- ・自分たちの暮らしと海の関わりを知ることで、海の大切さを理解する。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・課題を設定し、主体的・協働的に探求する力
- ・様々な情報を活用し、まとめ、表現する力

1-7. 単元の展開(全6時間)

1-7.	単元の展開(全り時間)			
時	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価		
数	子自仏動・土なり谷	外部連携 / 使用教材等		
	・南極観測船ふじの活動や目的を知る。	・南極観測船ふじの見学行程を説明する。		
	・名古屋港水族館の展示の特徴を知る。	・南極観測船の調査活動の目的を理解させる。		
	・インターネットで「ふじ」の活動、水族館の展	・水族館の展示の目的を理解させ、見学を有意義な		
1	示のねらいを調べる。	ものにさせる。		
	4 oのTriz ハムは、といっこいで記れてもとした。	御叶ぶもいをすめ、学1 ノケルをいしばとをとし		
	4つの班に分かれ、ふじについて調べたことを	・興味がわいた事や、詳しく知りたいと感じたこと		
	まとめる。	は質問事項としてメモさせる。		
2		・ガイドさんへのお礼の言葉を考えさせる。		
	・船内を見学し、ガイドさんの説明を聞く。	・ガイドさんの説明を聞きながら、それぞれに質問		
		していくようにさせ、メモをとらせる。		
		・見学後、生徒からガイドさんにお礼を述べさせる。		
3				
	・名古屋港水族館を見学し、生命や海の豊かさを	・各館内の展示テーマを意識しながら見学させる。		
	感じ取る。			
4				
	・ナル教に向けて ※主田のコニノいたルーナ	・ 耕らで頂いたとしの日帯で終日 - 母ドモンしょし		
	・文化祭に向けて、発表用のスライドを作成する。	・教えて頂いたことや見学で発見・感じたことをし		
		っかりと伝えられるスライド作りができるよう、指		
5		導する。		
	・完成したスライドをもとに発表する。	・はっきりと大きな声で発表するよう指導する。		
C				
6				

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間(導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など)の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 6 時間中の 3 時間目

※例: 単元10時間中の2時間目 / 単元15時間中の4,5時間目

2-2. 本時の目標

南極観測船ふじの調査方法や内容を知り、南極の海について学び、海の大切さを感じることが出来る。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応

教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)

- ○南極観測船ふじの説明を受ける
 - ・4つの班に分かれ、それぞれガイドさんから船内 を見学し、説明を受ける。
- *ガイドさんの説明内容
 - ○ふじは1965年に建造された。
 - ○ふじの南極観測は18年間で24回実施された。
 - ○南極の氷は船を上下させるチャージングという 方法で破砕している。
 - ○氷上調査用ベル47G2A というヘリで砕きやすい氷を探す。
 - ○現在は後継艦しらせに引き継いだ。

1965 年進水式

後継艦しらせ





*生徒の反応

- ○船内に様々な生活空間があって驚いた。
- ○調査がいかに大変なことかよく分かった。
- ○自分たちの生活に活かされていると思うと、あり がたいことだと感じる。

・適宜メモや写真をとらせる。また、しっかりと説明を聞かせる。※説明を聞くだけでなく、質問をさせる。







質問しているところ。ガイドさんの説明を聞き、写真を撮ったり

生徒代表の言葉

3. 今回の活動の自己評価

今回、修学旅行の一部としてふじの見学やガイドさんの説明を受けることができた。これまで南極の調査が自分たちの生活に関わっているなど考えたこともなかったという生徒達も、調査により様々なことが分かったり、発見されたりするなど、大切なことだと感じたようである。また、自分たちが暮らしている地域の海を大切にすることは自分たちの生活を守るだけでなく、世界の海洋環境を守っていくことに繋がることを理解することができた。

4. 今後の課題

学校で学ぶ事だけでなく、校外で見学させていただくことで、関心が高まり実際の様子がイメージできたようであった。身近な生活の中での海だけでなく、南極という遠方での活動が自分たちの生活に関係していることを理解することは大切であると感じた。そして、少しでも生徒達が生き方を考える機会となってほしいと思う。

3. 卒子百円谷報百責佰用にめたつ(切留息)	習意点	っての	にあたっ	本学習内容報告書活用	5.
------------------------	-----	-----	------	------------	----

- ※実施した単元ごとに作成してください。
- ※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。
- ※基本レイアウト

フォント: MS 明朝、10.5 ポイント / マージン: 上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例:学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画(年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料)があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。